

中国5県の共産党が一斉宣伝

県内でも地方議員先頭に訴える

中国5県の日本共産党は17日、党躍進に向け、一斉宣伝しました。松江市では尾村利成



県議、市議団らがスーパー前で宣伝し、「10月からの消費税10%は中止を」「中林よし子元衆院議員を参院鳥取・島根選挙区の野党統一候補に」と呼びかけました。尾村氏は、内閣府の景気動向指数が6年ぶりに「悪化」となったことにふれ、「消費税増税前提の予算を強行した安倍政権の政治責任は極めて重大」と批判。「国会予算委員会での徹底審議を強く求める」と訴

えました。安来市では16日、原田貴与子、向田

原発ゼロのたたかい広げよう

県庁前・金曜行動

島根原発が立地する松江市の県庁前で17日夕、金曜行動が行われ、11人が参加しました。「原発ゼロだ。今すぐゼロだ」「日本海を守れ」とコールしながら、中国電力島根支社までパレードしました。リレートークで、光谷公男さんは「処理ができない核のゴミのことは触れず、国民をだまして原発稼働を狙っている」と話しました。

より一層の団結を固め、必ず勝利を勝ち取るうではありませんか。この連休、久しぶりに水俣病被害者のみなさんを訪ね歩いていきます。熊本・鹿児島にわたり天草・長島をはじめ数え切れない島々からなる不知火海沿岸。行商で魚が運ばれた内陸部。公式確認から63年になります。救済を勝ち取った被害者とまったく同じ症状に苦しみ続けているのに、「水俣病患者とは認めない」と切り捨てる安倍政治への怒りが沸々とたぎります。水俣病は終わっていません。「仁比さんの議席は水俣病被害者の体の一部」と、選挙も頑

本気の共闘で安倍政治終わらせる

10連休も後半は5月晴れに恵まれ、帰省した子どもたちの頑張りを聞きながら次の闘いを思い巡らしています。みなさんは少しゆつくりできましたか？ 5月1日のメーデー

聴の両市議が宣伝しました。(写真)

「とし、国のエネルギー政策を批判しました。岩本晃司代表は経済産業省が3月、「原発低コスト」論を否定したと述べ、「脱原発のたたかいを島根から広げよう」と呼びかけました。帰宅途中の男性は「原子力事業に携わっていますが、電気は十分足りていて原発を動かす必要性はどこにもありません」と話しました。

熱血・弁護士に 仁比 しょうへいの Hotレポート

1。3日の憲法記念日。連続選挙の真っ只中、私たちは一斉地方選挙の結果を深く捉え、参議院選挙でなんとしても安倍政治を終わらせる——新たな決意を奮い立たせて臨みました。怒り爆発の劇的勝利、数票の僅差で歯噛みする惜敗、あと一歩まで迫った大健闘。みなさんのご支援、そして先頭に立って奮闘された全ての候補者のみなさんへの敬意でいっぱいです。

参議院選挙の公示は7月4日(21日投票)、大決戦まであと2ヶ月に迫りました。あらゆる教訓を心に刻んで、現場から声を広げ、



北九州メーデーであいさつ

中海干拓事業を中止へ

初議席を失ったよし子さんは、その後3年余、再び地を這う候補者活動を余儀なくされる。県内を走り回る中で、初当選前とはちがう「よし子さんならやってくれる」との県民の期待が高まり、中林事務所にも様々な生活相談も舞い込むようになった。そして、83年に2期目の当選を果たすと、いよいよ国会議員としての本領を発揮していく。

政官財癒着の構図を示し中止迫る

その後も当落を繰り返したよし子さんは、結局、通算で4期9年間の国会議員活動を経験。落選中も度重なる政府交渉を行い、様々な要求実現に奔走。中でも、80年代に大きく盛り上がった中海干拓中止を求める県民運動では大きな役割を果たした。

元衆議院議員(4期9年)

よし子さんを語る

元中林よし子秘書 吉川 晴雄 (6)

農林水産委員として活躍したよし子さん。2001年、BSE問題が発生した時、肉骨粉の輸入を禁止せず、牛に与え続けてきた政府を追及。時の小泉首相から「政府として責任を感じている」との答弁を引き出し、問題解決へ。また、米の「全量輸入義務」としていたミニマムアクセス米の輸入では、「最低輸入の機会」であって全量ではないことを認めさせるなど、日本農業の再生と食の安全を求めて追及してきた。

先輩議員から大きな薫陶...

よし子さんが衆院農林水産委員になった時に、活躍していたのが「農民の父」と呼ばれた青森選出の国会議員の津川武一さんだった。貧しい小作農民の子として育ち、刻苦勉励して医師となった。「米とリンゴと出稼ぎ者を守る」をスローガンに、69年初当選すると農水委員となり、議員の傍ら、首都圏の出稼ぎ者の無料診察も続けた。その温和ながらも筋金入りの議員像に、よし子さんは大きな薫陶を受けた。(つづく)



■初当選後に中海干拓問題などを農水委員会を追及する中林さん。